寝　屋　川　市

廃校跡地を活用し、池の里市民交流センターをオープン

はじめに

本市は、高度経済成長期に大阪の衛星都市として急速に発展するとともに、人口が急増し、昭和50年代には人口25万人を擁する住宅都市となりました。

しかし、近年、少子高齢化の進展とともに、人口減少が顕在化してきていることから、文化財や自然などの地域資源を活かし、地域での様々な市民活動や生涯学習の振興を図ることを通じて、市民が定住できる魅力あるまちづくりの一層の推進を図っています。

そのような中、小学校の廃校跡地をリニューアルすることにより、多様化する市民ニーズに応えることを目指し、平成18年９月20日、市立池の里市民交流センターがオープンしました。

経緯

地域の中に一定の面積を占める学校施設は、コミュニティの核及び防災拠点としての機能を備えています。少子高齢化の進展や市民ニーズが多様化する中で、生涯学習や様々な市民活動に対する市民の意欲が高まってきており、こうした活動をさらに活性化していくための施設整備が求められています。

今回の施設整備は、このような観点から、本市の学校適正化実施計画に基づき、池の里小学校の廃校後に、その跡地をいかに有効活用するか、というテーマで進めました。

そこで、市民が市の歴史や自然を学び、市への愛着を育む施設を目指すこととし、埋蔵文化財資料施設を中心とした複合施設の整備を図ることとなりました。

整備に至るまでには、地元説明を繰り返し行い、地元の意向を踏まえると同時に、関係団体との調整を図りながら綿密に計画をつくり上げていきました。

施設の概要

本施設は、「体育施設」、「文化財資料施設」、「自然資料施設」、「多目的室」、「地域交流施設」からなり、市民の文化・スポーツ活動の振興と社会教育の場、地域交流の場を提供する複合施設として開設しました。

また、本施設の運営にあたっては、「体育施設」、「文化財資料施設」、「多目的室」は市が行っていますが、特に「自然資料施設」と「地域交流施設」については市民活動の拠点として市民主体で運営を行っている点が特徴です。

【体育施設】

バレーボールやバドミントンなどができる体育室、学童野球や学童サッカーなどができるグラウンドやゲートボールができるサブグラウンドがあります。

【文化財資料施設】

旧石器時代から江戸時代までの市内各遺跡から出土した遺物などを展示するとともに、来館者や小・

中学生に土器の復元などの作業が体験できる「体験学習室兼遺物整理作業室」などがあります。

【多目的室】

市民、ＮＰＯ、ボランティア等の活動、交流の場として、また様々な生涯学習活動や会議の場として利用できます。

【自然資料施設】

公募による運営スタッフにより、市民主体で管理・運営をはじめ、市民向けの体験学習などを実施しています。

水生生物や昆虫標本など、身近な本市の自然物を展示する自然資料展示室と、どんぐりや木の実などを使って、「つくる」・「遊ぶ」などの体験ができる「自然体験学習室」などがあります。

【地域交流施設】

校区福祉委員会※が主体的に運営を行っています。

主に、地域住民が身近に福祉相談をできる“まちかど福祉相談所”を開催する「池の里活動室」や、外出困難な高齢者の外出を援助するための「外出援助サービス活動室」、子育て支援サロン、囲碁交流会などをはじめとした世代間交流や生きがいづくり活動のための「いきいき教室」などがあります。

※校区福祉委員会

社会福祉協議会の内部組織で、「誰もが安心して暮らせるまちづくり」をめざして、各小学校区（24小学校区に23会）において、地域福祉を進めていく事業・活動を行っています。

なお、当施設においては、西小学校区・桜小学校区の校区福祉委員会が活動されています。

今後の展開

今後も、地域の方々の活動を主として、更なる展開を図っていくことが必要と考えています。

市の歴史や自然を次世代に引き継いでいくため、生涯学習の振興を積極的に図るとともに、地域のスポーツ活動の拠点として体育館やグラウンドを活用しながら「総合型地域スポーツクラブ」の設立を進めるなど、一層のスポーツの振興を図っていきます。併せて、市民の学習活動の場、地域の住民活動の場、高齢者の交流の場として施設を提供することにより、地域の自主的な活動を促し、市民がふれあい、いきいきと活動できるまちづくりを推進していきます。

終わりに

人口減少社会を迎え、学校施設の再編や有効活用は大きな課題となっています。特に高度経済成長期に人口急増を経た本市は、その時期に建設した学校施設の再整備を進めており、今後、必要に応じて学校規模の適正化を図っていきます。

学校施設は、地元の方々にとってはかけがえのない思い出の場であることから、施設を有効活用し、新しい地域のコミュニティの核として再生を図っていきたいと考えています。